

陽ざしにはまだ夏の名残もありますが、日の長さも短くなってきて秋の気配を感じるようになってきました。この夏、子どもたちは保育園でも体を動かすことはもちろん、水遊びや氷などのさまざまな感触遊びに調理活動とたくさんの体験をしながら“不思議だな”“そうだったのか!”という発見を繰り返してきたことと思います。

まだまだ残暑も厳しいので、健康管理には気をつけながら秋ならではの体験がたくさんできるよう、子どもたちと過ごしていきたいと思います。



4日(月) 乳児身体測定
5日(火) 幼児身体測定
6日(水) なかよし広場
7日(木) お誕生会

15日(金) 巡回相談

※避難・消火訓練は日にちを決めずに行います。

★10時15分～開始します

《靴の選び方》 子育て支援より

これから涼しい季節になり、園外散歩や運動会など体を動かす機会も増えていきますね。

子どもの足は骨が柔らかく、骨格は日々発達していきます。幼児期の靴は足の発育に大きく影響すると言われています。足の長さや幅、形に合った靴を選んであげてください。

▶大きすぎる靴

足の指で踏ん張れなくて扁平足になったり、足の指に余分な力が入るため、外反母趾になったりする危険があります。

▶小さすぎる靴

指が丸まり骨の成長を妨げます。

☆ぴったりサイズのチェックポイント☆

- つま先のゆとりは指がグーパーできるくらい
- 足の横がきつくない
- かかとがパカパカしない
- つま先が反りあがってる
- 足が曲がる位置で靴も曲がる

1歳頃はまだ歩行が安定していないので、“つまずきにくさ”を重視することがポイント

1～3歳頃まだ土踏まずがなく、足の裏で踏ん張る力がありません。正しい歩行をサポートするために“かかとの安定性”を重視することがポイントです。

あっという間に大きくなってしまい買い替えるのも大変ですが、子ども達が元気に遊びに集中できるようぴったりサイズの靴を選んであげましょう！

園長の一言日記

先日夏の高校野球で優勝した監督のインタビューで話されていたことですが、指導する上で一番大切にしてきたことは、「選手が自分で考え実践すること」自主性だそうです。

保育指針でも子どもの自主性を尊重し保育を計画するように求められています。当園の先生方も子ども達が楽しく遊べることはもちろんですが、その中で子どもが自分で考え友達と話し合い遊べるように関わってくれています。

改めて乳幼児期からの経験の大切さを感じました。

STEMとは？

『STEM（ステム）教育』という言葉を知っていますか？

STEMとは、Science（科学）・Technology（技術）・Engineering（工学）・Mathematics（数学）の頭文字を取り、これらの教育分野を総称した言葉です。この4つの学問の教育に力を注ぎ、IT社会とグローバル社会に適応した国際競争力を持った人材を多く生み出そうとする21世紀型の教育システムで、世界各国で導入され始めています。これまでの「先生が教え、生徒は覚える」の学びではなく、新しい時代に必要とされる**自発性、創造性、判断力、問題解決力**を養っていくことがSTEM教育の本質的なねらいです。従来の教育ではひとつの分野を深く掘り下げていくような取り組みが主となっていましたが、STEM教育によりそれぞれの分野に跨るような問題を発見し、それを解決するような力を養うことを目指しています。また、STEM教育で行われる体験的・創造的な学習によって、主体的に問題を発見しようとした問題に気付ける力も鍛えられていきます。

そして乳児期から子どもたちは見る、触る、舐める、聞く、嗅ぐなどの行為を通して驚きや不思議さの基盤作りをしているとも言えます。これを踏まえたうえで、私たちも日常の保育の中でSTEMに繋がることを日々取り入れています。例えば先日の調理活動の一場面。かき氷作りを行っていて3歳児は透明な氷を見て「白い！」と言っていました。削った氷を見てみると白くなっていて、“白い”という同じ表現をしてもそれぞれの色の違いに気付きました。4歳児はそこからどうして削った氷は白くなるのか？と疑問を持っていました。また触るととても冷たくて離すと温かく感じることも不思議だったようです。5歳児はシロップの味に注目し、シロップは味覚上どれも同じ味で嗅覚によって味が変わるという不思議を体験しました。（鼻をつまんで食べると同じ味に感じるのです！）そして氷の中の白い所はどうして出来るのか？ということに疑問を持った子もいました。

このように私たちの身の回りにはSTEMの教材がたくさんあります。大人の私たちが当たり前のように思うことでも、子どもたちにとって「何でだろう？」「どうなっているのかな？」などと不思議に感じて、たとえ正解が分からなくてもその事柄について考えたり探求する気持ちが大切なのです。こういう考えのもと、年長児が午睡時間に行っている学習では、ワークといった勉強よりも「これって不思議だね」とみんなで考えたり、鉛筆を持ち座って文字や数字を書けるようにというよりは、ひらがなや数字に興味を持てるような活動をできるだけ多く取り入れていきたいと進めています。

“まだ小さいから…”ではなく、その時一人ひとりが抱いた不思議や疑問と向き合い、すぐに答えを与えてしまうのではなく一緒に立ち止まって考える時間を大切にしていきたいものですね。



《保育目標》

- すみれ組・戸外で伸び伸びと身体を動かし秋の移り変わりを感じながら探索遊びを楽しむ。
 - ・自分の思いを指差しや喃語で伝えようとする。
- つくし組・保育者や友だちと一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ。
 - ・適切な水分補給や休息を取り、熱中症に注意しながら過ごす。
- たんぽぽ組・季節の移り変わりを感じ、秋の自然に触れる。
 - ・遊びや活動の中で自分の思いを仕草や簡単な言葉で相手に伝える。
- ゆり組・集団のきまりを守りながら行動する。
 - ・いろいろな身体の動きに興味をもち、友だちと一緒に運動遊びを楽しむ。
- ばら組・自分の思いを言葉で伝えたり、相手の気持ちを考えながら関わりを深める。
 - ・一つの事を最後までやり遂げ、自分や友だちと得意な事に気が付く。
- ひまわり組・意見を主張したり、受け入れたりしながら、友だちと遊びを楽しむ。
 - ・身の回りの物の整理整頓を心掛ける。